

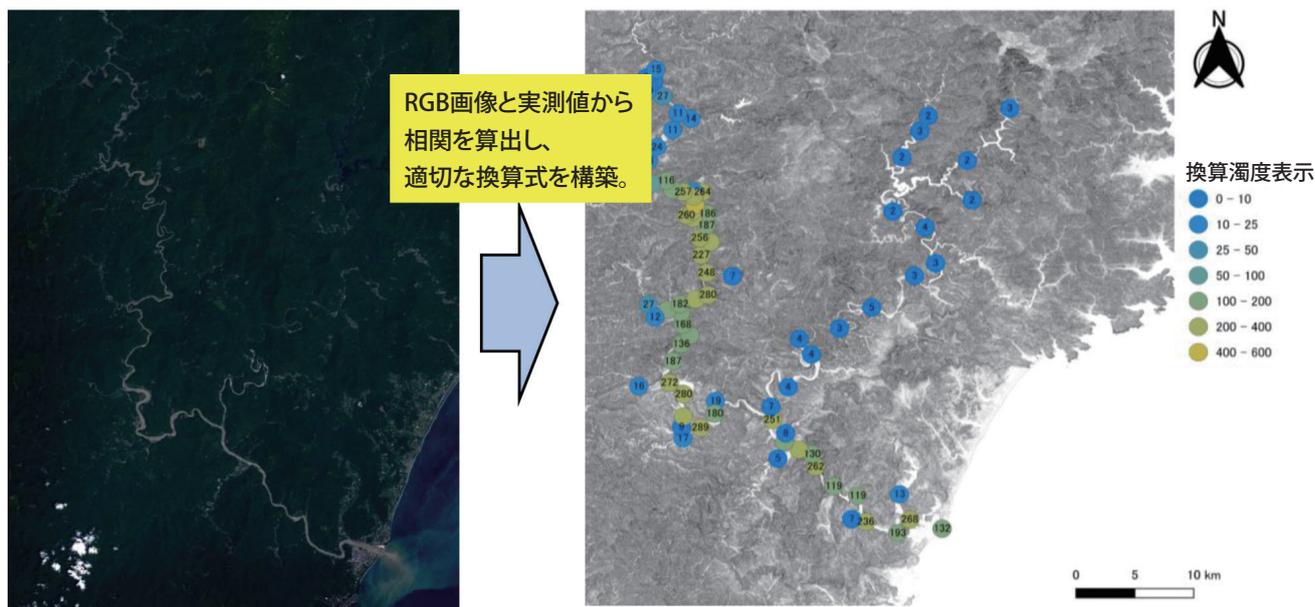


研究技術内容

【主なテーマ】

- ・現状：河川環境の広域情報について詳細な把握を行うことは、社会環境基盤に重要な影響を持つ
- ・課題：広域を正確にとらえるには景気の計器が必要だが、コストに問題がある
- ・解決：衛星は時系列データを有しており、過去の気象データとの相関も容易に把握できる

技術要点説明



Sentinel2 (Copernicus Sentinel data/ESA) 画像から換算した河川濁度表示

産業への活用方向

河川濁水発生状況、植生変化状況の把握と対策（長期的な監視）

関係する大学・企業等

J-POWER（電源開発株式会社）、地圏科学研究所、日本大学文理学部、（公財）深田地質研究所

研究室概要

研究分野	衛星画像・データを活用した環境モニタリングシステムの研究
主研究テーマ	空間情報データ・AI・応用地質・地形学の融合
主要キーワード	自然災害・予測・対策、クロスタイムコンピューティング、地理情報システム
研究室 HP	http://natural-hazards.na.coocan.jp

特記事項

○シーズの熟度

複数時期の実測値と濁度の相関データを取得し、河川濁度の算出は可能となっている。今後、衛星画像の高精細化により、河川環境だけではなく、農業や都市環境の変化についてもモニタリングが期待される。